

車線逸脱お知らせ機能

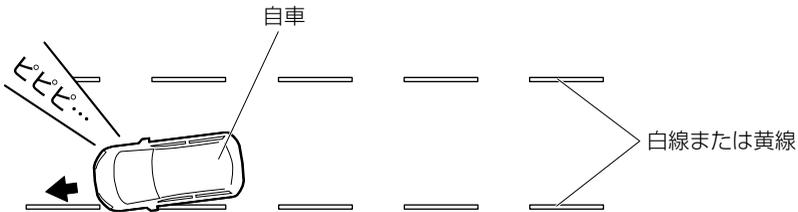
運転する車両が走行車線から逸脱しそうなときに、警報で注意を促すシステムです。

警告

「車線逸脱お知らせ機能」システムは、車線の逸脱を防止するシステムではありません。周囲の環境や状況により逸脱を検知できない場合があるため、警報だけに頼って走行すると思わぬ事故につながります。

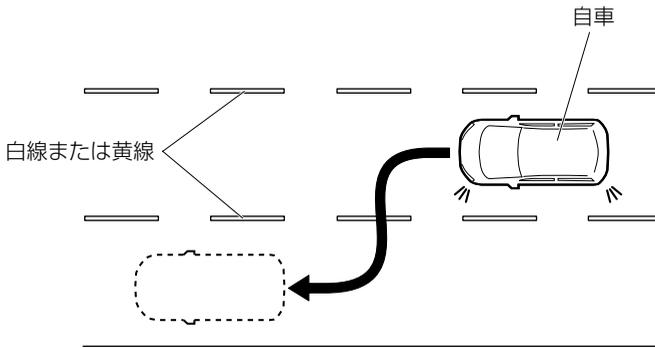
■ システムの作動条件

約 60km/h 以上で前進走行しているとき、方向指示器スイッチを操作せずに白線または黄線を逸脱しそうになるとシステムが作動します。



次のような場合、システムは作動しません。

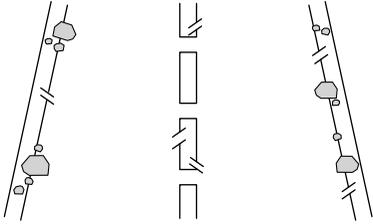
- 方向指示器の操作中（ハザード操作は除く）に逸脱したとき
- 方向指示器の操作解除後の約 3 秒間に逸脱したとき



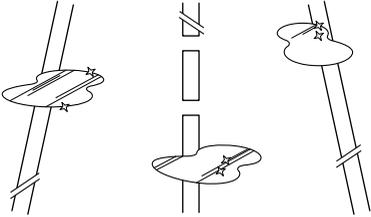
お知らせ

● 下記のようなときは、「車線逸脱お知らせ機能」システムが正しく作動しないことがあります。

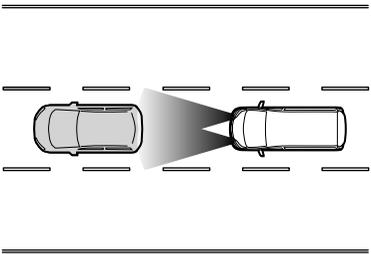
- 汚れやかすれなどで白線または黄線が見えにくいとき



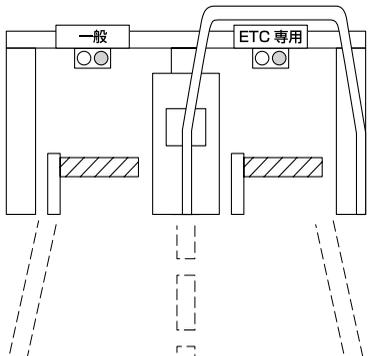
- 悪天候（雨、雪、霧など）、雨上がり、雪などで路面が濡れて光っているとき



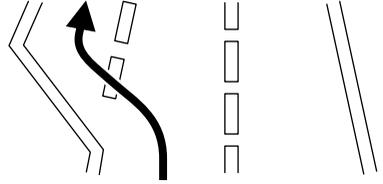
- 他車のヘッドライト、太陽光などの強い光を受けているとき



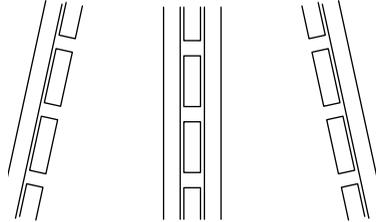
- 料金所、検札所などの手前に白線または黄線がないとき



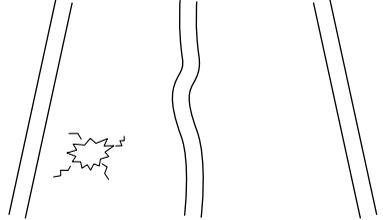
- 車線規制または仮設車線がある区間、交差点または横断歩道など車線の数が増減している区間、複雑に交差している区間などを走行するとき



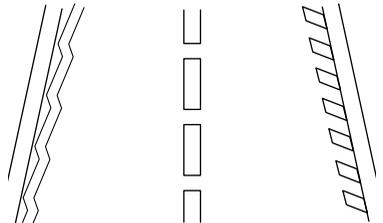
- 白線または黄線が複雑に混じりあっているとき



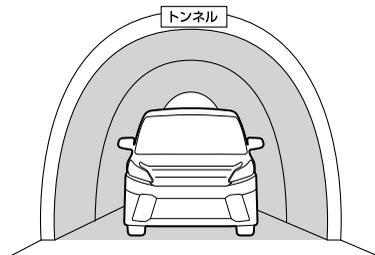
- 路面の凹凸で白線または黄線がゆがんで見える、または段差などで車体が大きくゆれたとき



- 一般的ではない白線または黄線がある道路を走行するとき



- 光が不十分で車両後方の路面が暗い、またはトンネルの出入り口などで急激に明るさが変化するとき



- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 消された白線または黄線がまだ薄く見えている道路を走行するとき
- 道路上にガードレールなどの影、雪、水たまり、わだち、継ぎ目、線状の補修痕、縁石などがあるとき
- 車線の分岐や合流のある道路を走行したとき
- 白線または黄線に対して自車がまっすぐに走行していないとき
- テールゲートまたはトランクが開いているとき
- 坂道、重い荷物の積み込み、指定空気圧にタイヤが調節されていないなど、車両が傾いてしまうとき
- リアカメラに荷重がかかるなど、正しい位置から傾いてしまったとき

警報

- 「車線逸脱お知らせ機能」システムの警報は、ブザー音でお知らせします（警報ランプ表示はしません）。